

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 医学研究センター 生化学: 教授 (任期: R7.3.31)
副部門長 堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 医学部 微生物学: 講師 (任期: R7.3.31)
部門員 森 隆 (MORI Takashi) : 総合医療センター 研究部: 教授
前田智也 (MAEDA Tomoya) : 国際医療センター 造血器腫瘍科: 准教授
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院 歯科・口腔外科: 准教授
駒形英樹 (KOMAGATA Hideki) : 保健医療学部 臨床工学科: 准教授
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師

2. 目的・目標

研究マインド醸成, 学内グラント活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理の順守呼びかけなどの活動を目的とし, 学内研究者の研究活動の健全な実施をサポートすることを目標とする。

3. 活動実績

①学内グラントと研究奨励費の助成

2023年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞3件, 科研費申請支援グラント15件, 計18件応募があった。分野別の複数選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 科研費申請支援グラント14件, 計15件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購経由使用, 経費報告書必要なし)が計6件助成された。

②科学研究費獲得状況の把握

2023年度の科研費採択結果は, 申請総数157件に対して新規採択42件(採択率26.8%), 採択総額228,150千円であった。申請数・採択率はいずれも去年より若干低い結果となった。

③剽窃検知ソフト iThenticate の運用

論文作成では意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文デジタル化とインターネット普及を背景に平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate の運用を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始めた。現在は, リサーチアドミニストレーションセンターからの申請により, 大学経費からの支出で運用されている。なお, 2019年度から大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, 本ソフトを使用した検知を実施することが義務化された。

④科研費アドバイザー制度

2020年度より, 科研費採択率の向上を目指し, リサーチアドミニストレーションセンターとの共同で, 科研費の全種目を対象とした新しい科研費アドバイザー制度を運用している。2023年度は, 科研費審査委員や大型競争的研究資金獲得経験のある研究者を中心とした41名がアドバイザーとして登録され, 利用者の研究計画調書を個別に添削した。利用件数はのべ49件で, 種目の内訳は若手研究9件, 基盤研究(C)31件, 基盤研究(B)6件, 挑戦的研究(萌芽)1件, 研究活動スタート支援2件であった。

さらに, 片桐センター長を講師として, 「2023年度科研費研究計画調書の書き方に関する講習会」を企画し, 7月24日に実施した。本webinarの内容は限定公開でYouTube配信を行った。受講者アンケートでは判りやすく役に立ったとの回答を得た。

次年度以降も、より効果的で利用しやすいものを目指して「科研費アドバイザー制度」をブラッシュアップし、本学の科研費採択率向上につなげたい。

⑤悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというプランS等の国際的な潮流に伴い、著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が増えているが、誤って悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）に投稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。これに関して、各自確認するように注意喚起を行っている。

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

学内グラントと研究奨励費の助成は、例年通り、問題なく実施された。科研費の申請総数・率、採択率、採択総額の向上を目指して、科研費申請支援グラントでは、助成に加えて科研費アドバイザーによる研究計画調書のブラッシュアップを行うようにした。剽窃検知ソフト iThenticate の本格運用および学位論文等における正式な運用が開始され、使用数も増え、益々重要度が上がっている。悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応については、本学の全教員がその存在を認識し投稿雑誌を再考するきっかけになったと考える。

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

学内グラントに関しては、今後もグラント選考委員会と連携しながら、守秘義務を遵守して公正な選考が継続されるよう努めていきたい。剽窃検知ソフト iThenticate に関しては、大学組織・研究者個人の信用にかかわる重要な問題として、今後も啓蒙活動を継続する予定である。「科研費アドバイザー制度」に関しては、前年度よりも申請数が低下したことから、次年度も引き続き、より効果的で利用しやすいものを目指してブラッシュアップし、本学の科研費申請数・申請率・採択率のさらなる向上につなげたい。